



國信好永

天山多久温泉TAQUAについて

國信 現在の利用状況は。

答弁 7月8日の開業より、毎月利用状況の報告を受けている。2月末まで、来場者93,445人、内訳は市内の温泉・プール・交流スペース「彩り」利用者が32,713人、市外の温泉・プール利用者が45,097人、宴会利用者が6,302人、宿泊が9,333人となっている。

國信 初期の計画と現状との変更点は何か。

答弁 シエフの変更、交代があり和食から洋食へ。
プール利用が10月から土日、祝日のみとなり2月～夏休み前までは休業、ゴールデンウィークの営業は検討中。日帰り温泉の営業時間短縮。物産館の利用については、現在検討中。



服部奈津美

児童虐待について

服部 虐待をさせない環境につながる取り組み、孤立感や孤独感を解消するための仲間づくりのイベント、ファミリーサポートセンターの利用の促進と啓発をお願いします。

答弁 乳児家庭全戸訪問や乳幼児健診などで切れ目のない支援を行っています。

また、年に2回、保健師が保育園などを訪問し、保育士と連絡連携をとりながら、子育てに困り感があるお母さんが孤立しないように努め、児童センターでは必要に応じて助言などを行いながら、相談しやすい体制をとっています。

仲間づくりについては、児童センターで「こころサロン」を開催し、レクリエーション、ダンス、お母さんを対象としたヨガやおしゃべり会を行っています。

他にも様々なイベントを行っているのですが、併せて交流会という形で検討していきたいと思っております。

國信 運営に対して助言などを行っているか。

答弁 運営に関しては、民間主導で行われています。市としては、観光協会や商工会とともに毎月定例会を実施し、市内のイベント情報の提供・共有をしています。

國信 初期の計画どおり進まなかった理由は何か、また、それに伴う事業費への影響は。

答弁 多久駅を南北で結ぶ自由通路の構造変更や水路位置の変更があり事業期間が延長となったが、目的としての変更はない。2億5100万円の増。



多久駅周辺土地区画整理事業について

國信 事業終結に向けた予定は。

答弁 平成31年度に整地工事や道路整備工事を行い、33年度末に換地登記の完了を予定しています。

ファミリーサポートセンター事業と、県の事業として昨年10月から利用を開始している、スマートフォンなどのアプリを利用した子育ての相互援助活動である、地域で子育てシニアエゴ実証事業と合わせて周知啓発を行っていますかと思っております。

服部 相談体制について。

答弁 虐待に係る通報相談は児童相談所や福祉課など、子育てに関する相談は、子育て支援センター、福祉課の家庭児童相談、全国共通の電話相談189番があります。



※一部のIP電話からはつながりません。※通話料がかかります。

その他の質問

▼空き家バンクのシステムについて



中島國孝

図書館建設について

中島 図書館建設について現在までの経過は。

教育長 これまでの間、平成13年3月の「多久市民の図書館建設についての提言書」、平成23年3月の「北部小学校跡地・跡施設活用に関する提言書」、平成28年12月の「多久聖廟周辺整備地元推進委員会からの要望書」、平成29年3月の「多久市立図書館あり方検討懇話会の提言書(多久市立図書館の目指すもの)」等、市民を主体とした新図書館建設のあり方について検討されてきたり、御要望を頂戴してきましたが、現在まで新図書館の建設実現に至っていないことについては大変残念に思っているところです。

中島 市長答弁で「財政全体のやりくりを」と言われており、図書館建設予算も財政のやりくりを考慮準備されていくのか。

市長 まず、整備につきましても、



野北悟

市民生活を支える公共交通について

野北 免許証の自主返納の進展に伴い、公共交通による移動手段が必要な方の増加が見込まれるが、課題となるものは何か。

答弁 日常生活で利用する施設へのさらなる利便性向上が重要と認識しています。

野北 ふれあいバスの運行で考えると、市役所↓多久駅↓市立病院↓タクア↓フードウェイ↓市役所の環状線を作り左右回りの運行を行い、そこに枝線をつなぐことになり利便性になると考えるが。

答弁 こもつともな部分もあるのですが、利便性向上策の一つとして内部で検討していきたい。

野北 市外へのバス路線としては、通学、通勤、眼科などへの通院を考えると、34号線へつなぐ南北のルート確保が重要だと考えるが。

当初大きな構想等が過去にあつていますが、身の丈に合った部分と、その後の使い勝手のよさや、あるいは時代とともに、この10年で大きく図書館の機能や期待される役割が進化しています。これらに対応するものを取り込みながら基本設計をし、その後、市民の皆さんや議会の意見を聞き、具体的に計画し、新たに充実できればと考えています。



答弁 課題として認識しているが、対応策は出していない。

野北 公共交通を今後どの様に支援維持していくか重要課題として取り組んでほしい。



公共施設の配置について

野北 コンパクトシティを考えると、生活圏は地図上の距離ではなく、移動に係る時間がカギとなる。過疎地域においては公共施設が多くなる人が集まる場所は少ない。公共交通の利便性を高め施設の集約や配置を行うべきではないか。

答弁 コンパクトシティに関しては市内全体の状況を勘案して施策の立案が必要と考えるが、現在も本格的な検討には至っていない。